

かさねの色目の花あそび No.47

【色目】柳 <表：白 裏：淡青>

白は、猫柳の枝に芽生えた、白い産毛の新芽の色を表しているとのこと。となると、淡い緑は若葉ということか。

猫柳の冬芽には、花芽と葉芽がある。花芽が殻を破り出てくるのは「花穂」と呼ばれる産毛状のものだが、これがいっぱいの花となる。柳は雌雄異株なので、それぞれの株の花芽（花穂）は、小さな小さな雄花／雌花が開花して花序を形成するというわけだ（つまり、花穂が成長して開花した姿）。その後、葉芽が展開する。つまり、若葉が芽生える。

柳の色目は「薄柳」とも呼ばれるそうだ。着用時期は冬から春にかけてとなっており、早春の芽吹きを予兆、期待する取り合わせなのだろう。

花材の取り合わせは、アイビーだけだが、白い斑入りで2色。薄緑が強めなので白が目立たないが、なかなか味のあるアイビーだ。



もう一つ、こんなのはどうだ!!

<写真左>ルスカスの葉が緑をだんだん失って枯れかけ、白く、というより、クリーム色っぽくなっている。

<写真右>少しリメイクしてモンステラの緑の葉を追加（右に張り出した葉）。この白と緑の葉の取り合わせには、葉っぱだけの潔さがあるし、清涼感も漂う。